

教科	地歴	科目	日本史A	学年	4	単位数	2	担当者	河崎 幸一
指導目標	近現代史の日本を歴史的に考察し、現代の日本や世界と比較しながら歴史的思考力を培う。歴史的現象を多面的・多角的に考察する力を養う。								
学習者への注意	毎回の授業で、教科書、資料を活用し、ノートにまとめて理解をはかる。毎回のノート提出や定期考査、授業態度や出席状況等の学習活動への参加状況などで総合的に評価する。								
評価の観点	<p>関心・意欲・態度 日本の歴史的事柄に対する関心を高め意欲的に課題を追求するとともに、平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて過去を認識する態度を身に付け、人間としての在り方についての自覚を深めようとする。</p> <p>思考・判断・表現 日本の歴史的事項から課題を見だし、歴史的現象の本質や人間の存在および価値などについて広い視野に立って多面的・多角的に考察し、歴史的変遷や様々な考え方を踏まえ、その過程や結果を適切に表現している。</p> <p>資料活用の表現 日本の歴史と世界史との関わりに関する事柄の諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。</p> <p>知識・理解 日本の歴史と世界との関わりから人間としての在り方・生き方に関する基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。</p>								
使用教科書	第一学習社「日本史A 人・くらし・未来」								

学期	月	実施 時数	単 元	内 容	評価の基準
1	4	2 1	近代への胎動 明治維新	鎖国と対外関係 大政奉還、王政復古 廃藩置県と版籍奉還	毎時間ノート提出 考査の点数との総合判断 で評価
	5		近代国家の確立	四民平等、地租改正、 自由民権運動、	
	6		対外関係の変化	国会開設 条約改正、日清戦争、 韓国併合	
	7		政党政治の展開	政党内閣、 平民宰相の誕生	
2	9	2 6	近代産業の発展 と社会運動の展開 国民生活の変化 と文化	近代経済の発展、 社会・労働運動 大正デモクラシー、 教育・文化の発達	毎時間ノート提出 考査の点数との総合判断 で評価
	10		第一次世界大戦 と日本	第一次世界大戦、 国際協調外交、 大戦景気	
	11		第二次世界大戦 と日本 日本の再出発	恐慌と軍部の暴走 第二次世界大戦 連合軍占領下の日本、 民主化と経済復興	
	12		独立後の政治と 対外関係	55年体制、安保闘争 高度経済成長、 石油危機	
3	1	4	これからの日本	バブル経済と崩壊、 55年体制の崩壊	毎時間ノート提出 考査の点数との総合判断 評価 1・2・3学期の総合評価 で学年末の成績を評価